

令和元年度「スポーツツーリズム・ムーブメント創出事業
（スポーツ文化ツーリズム創造・発信事業）」

スポーツ文化ツーリズムアワード 2019 選定 6 事例 調査報告書

令和 2 年 3 月

1. 調査目的

本調査は、「スポーツ文化ツーリズムアワード 2019」※参考を受賞した団体について、事業の成果、優れている点、これから事業を始めようとする団体へのアドバイス等をヒアリングシートによって収集し、公表することで、全国の自治体や NPO 等が「スポーツ文化ツーリズム」を推進する際の基礎情報とすること、ひいては、「スポーツ文化ツーリズム」の全国的な発展を目的としている。

2. 調査方法

各団体にヒアリングシートを配布。必要に応じて電話による追加調査を行った。

(ヒアリングシート)

質問 1	貴事業の概要、目標などについてお伺いします。
	① 貴事業を計画された背景（地域での課題・問題など）、それに対して、事業立ち上げに至る経緯（構想から事業スタートまでの概略）をご記入ください。
	② 貴事業開催前に設定していた目的・狙い（例：上記地域での課題に対して、インバウンド展開に対して、など）をご記入ください。
	③ 事業の目的・狙いは、どのくらい達成できたとお考えですか？
	④ 今後の目標（集客、インバウンド展開、など）をできるだけ具体的に記入ください。
質問 2	地方公共団体や地域で連携している展開があれば、ご記入ください。
質問 3	インバウンド向けに展開していることがあれば、ご記入ください。（WEB サイトやチラシの多言語展開など）
質問 4	貴団体で、今後や直近での課題があれば、ご記入ください。
質問 5	スポーツ文化ツーリズムの発展のため、貴事業が特に自信があり、他よりも優れている、と思われる点をご記入ください。また、他の地域で、これから事業を始めようとしている方や、すでに携わっている方へ、アドバイスやご意見があればお願いいたします。
質問 6	今回「スポーツ文化ツーリズムアワード」に応募された理由をご記入ください。
質問 7	本アワード受賞前後の変化等があれば（又は今後期待すること）を、ご記入ください。
質問 8	「スポーツ文化ツーリズムアワード」や、「スポーツ文化ツーリズムシンポジウム」を活性化するためのアイデアやご提言等があれば、ご記入ください。
質問 9	政府・地方公共団体や関係団体等へのご要望があれば、ご記入ください。

※参考 「スポーツ文化ツーリズムアワード 2019」

スポーツ庁、文化庁、観光庁の3庁は、2016年3月に締結された「スポーツ庁、文化庁及び観光庁の包括的連携協定」をもとに、3庁の政策連携による相乗効果によって、新たに生まれる地域ブランドや日本ブランドを確立・発信し、訪日外国人観光客の増加や、国内観光の活性化を図るため、「スポーツ文化ツーリズムアワード」を2016年度から実施している。

第4回となる「スポーツ文化ツーリズムアワード 2019」では、『スポーツ文化ツーリズム賞』『スポーツツーリズム賞』『文化ツーリズム賞』の3部門を設け、成功事例としてそれぞれ2団体ずつ、合計6団体を選定した。

3. 調査対象

スポーツ文化ツーリズム賞 入賞

◆日光国立公園マウンテンランニング大会

(日光トレイルランニング実行委員会)

◆剣道体験ツアー【SAMURAI TRIP】

(剣道体験ツアー-SAMURAI TRIP (運営：株式会社パークフォーアス))

スポーツツーリズム賞 入賞

◆魚沼国際雪合戦大会

(小出雪まつり実行委員会)

◆白山ジオトレイル

(白山ジオトレイル実行委員会)

文化ツーリズム賞 入賞

◆忍びの里「伊賀」ならではの本物の忍びの「心技体」を体現できる体験プログラムづくり

(「忍びの里 伊賀」創生プロジェクト会議)

◆「めぐる、たべる、つかる」ONSEN・ガストロミーツーリズムで地域を元気に！

(一般社団法人 ONSEN・ガストロミーツーリズム推進機構)

スポーツ文化ツーリズムアワード2019 【スポーツ文化ツーリズム賞】入賞



(申請団体)
日光トレイルランニング実行委員会

日光国立公園マウンテンランニング大会



取組概要

2015年の台風18号の被害を受けた日光・鬼怒川に元気を取り戻したいと願う地元若者によって立ち上げたトレイルランニングの大会。
行政からの支援を受けず、国やスポーツ関連団体からの補助金にも頼らない完全自主運営で実施。
大会の一番の魅力は「世界遺産や国立公園内を走れる」ことであり、世界に誇る日光の二社一寺を大会会場に、日光の大自然に触れながら駆け抜けるコースはトレイルランニング業界でも注目を集めている。

評価ポイント

- 日光の世界遺産や国立公園内を駆け抜け、歴史文化と大自然の両方を満喫できる稀有なスポーツイベント。
- 文化資源と大自然の組合せはインバウンドの訴求力も高く、全国モデルとなり得る。また、エコツーリズムとしても期待。
- 集客力も高く、開催による経済効果も大きく、地域活性化に大きく貢献。

スポーツ文化ツーリズムアワード2019 【スポーツ文化ツーリズム賞】入賞



(申請団体)
剣道体験ツアー SAMURAI TRIP(運営:株式会社パークフォーアス)

剣道体験ツアー【SAMURAI TRIP】



取組概要

外国人旅行者を中心に、剣道体験ツアーを催行。
ツアーには「剣道体験」を中心に3アクティビティ(1. 剣道体験、2. 剣道具製作工房の見学、3. 剣道レストランでの和食体験)を用意し、剣道の紹介だけでなく、歴史や文化、さらには伝統ある剣道具の魅力を伝える。
剣道体験では、剣道歴20年以上の講師陣が基本から丁寧に指導している。

評価ポイント

- 日本の伝統文化である剣道を切り口に、訪日外国人との交流を促進。
- 道具の製作工房見学や和食体験など、伝統文化も含めたプログラム。
- 全国展開できる事業性に期待。

スポーツ文化ツーリズムアワード2019 【スポーツツーリズム賞】入賞



(申請団体)
小出雪まつり実行委員会

魚沼国際雪合戦大会



取組概要

小出商工会青年部が主体となって企画し、小出雪まつり実行委員会や市民の協力を得て、地域の活性化を目指し「雪合戦発祥の地」を掲げ、これまで31回開催。
チームの大將は、豪雪地域特有の道具「かんじき」を履き、「山笠」を被り、「こしき」を持つのが特徴。
魚沼産コシヒカリや地元の温泉宿泊券など魚沼ならではの景品を用意し、会場内では、特産品の魚沼産コシヒカリを無料で食べられるコーナーや、名物の「生もつ焼き」や「けんちん汁」などを振る舞い、地域一体となってイベントを盛り上げている。

評価ポイント

- 雪を地域の文化資源として活用し、温かみのある地域のもてなしを行っている。
- 雪に親しむことを入り口に、スキーなどの他のスポーツに繋がることを期待。
- ルールが分かりやすく理屈抜きで楽しめ、インバウンド訴求力が高い。

スポーツ文化ツーリズムアワード2019 【スポーツツーリズム賞】入賞



(申請団体)
白山ジオトレイル実行委員会

白山ジオトレイル



取組概要

全ての食料を背負い7日間で約250kmを走破するステージ制アドベンチャーマラソンイベント。
平成26年より実施し、本年で6回目。
健康増進と地域活性化を目的とし、白山比咩神社をスタートし、白山七社などの神社仏閣と白山手取川ジオパークのジオサイトの観光名所を巡り、加賀禪定道などの修験道で霊峰白山へ登拝し、白山比咩神社へ戻るコース。
表彰パーティーで白山麓の熊や猪などのジビエ料理や郷土料理を振る舞う。

評価ポイント

- 単なるスポーツではなく、文化・自然を含めた精神性の高い取組。
- 白山の信仰文化や伝統芸能を組み合わせたユニークなプログラム構成。
- アドベンチャーツーリズムの観点で難易度の高いコースであるが、世界的な大会となる高いポテンシャルがある。

スポーツ文化ツーリズムアワード2019 【文化ツーリズム賞】入賞



(申請団体)
「忍びの里 伊賀」創生プロジェクト会議

忍びの里「伊賀」ならではの本物の忍びの 「心技体」を体験できる体験プログラムづくり



取組概要

伊賀の山里を駆け抜ける忍者の本物体験（忍者トレイルランニング事業）と伊賀の山里で暮らす忍者の本物体験（滞在型プログラム事業）による「忍びの正心である“心技体”を鍛える」をテーマとした体験プログラムを展開。
体験プログラムでは、農泊に田植え、稲刈りをはじめ、かかし看板づくり、しめ縄づくりが体験でき、伊賀焼の窯元散策、間伐作業の里山整備と木工教室などの農業体験・文化体験に忍者修行の要素を加え、「伊賀忍道」という伊賀オリジナルの宿泊体験プログラムとして提供している。

評価ポイント

- 日本遺産を中心エリアに、伊賀の伝統歴史を十分に組み込んだプログラム。
- 外国人の関心の高い、世界に通じるコンテンツとして期待。
- ヨガや忍道等を実践する「伊賀忍道」など、今後のさらなる展開が見込まれる。

スポーツ文化ツーリズムアワード2019 【文化ツーリズム賞】入賞



(申請団体)
一般社団法人ONSEN・ガストロノミーツーリズム推進機構

「めぐる、たべる、つかる」 ONSEN・ガストロノミーツーリズムで地域を元気に！



取組概要

日本が誇る観光資源、温泉とその土地の気候風土が生んだ食材・習慣・伝統・歴史等によって育まれた食を組み合わせた「ONSEN・ガストロノミーツーリズム」、その実践としてウォーキングイベントを全国各地で開催。
温泉地に設定されたコース上の自然や歴史・文化、街並みを自分のペースで巡り、ポイント毎にその地域の食事やお酒を主に1品ずつ食べ、ゴール後に温泉に浸ることができる。
「めぐる、たべる、つかる」をテーマに温泉地の魅力向上と地域活性化を目指す取り組みとして、平成26年より実施。

評価ポイント

- 温泉の楽しみ方にウォーキングを掛け合わせ、地域の文化資源の魅力を発信。
- 今後、常時参加可能なコース設定がなされ、一層の発展が見込まれる。
- 地域の文化資源を一度に巡る体験として、他地域への横展開に期待。

4. 調査結果

質問 1 貴事業の概要、成果、今後の目標などについてお伺いします。

① 貴事業を計画された背景、それに対して、事業立ち上げに至る経緯をご記入ください。

<スポーツ文化ツーリズム賞>

◆日光国立公園マウンテンランニング大会（日光トレイルランニング実行委員会）

- ・ 2016年に起きた台風18号で地域被害を目の当たりにした実行委員会の代表が、これまで活動してきた登山スキルを生かして何かできないかと考え、大会の立ち上げに至った。



◆剣道体験ツアー【SAMURAI TRIP】（剣道体験ツアー-SAMURAI TRIP（運営：株式会社パークフォーアス））

- ・ 創業者が5歳から大学まで剣道をしており、剣道の価値をもっと高めたいと感じたことがきっかけ。海外のどの国へ行っても、すでに剣道が広く伝わっており、世界中に剣道を広める「普及」というフェーズではなく、「価値を高める」立場として事業を展開したいと考えた。



<スポーツツーリズム賞>

◆魚沼国際雪合戦大会（小出雪まつり実行委員会）

- ・ 平成元年に「地域活性化」をテーマに NHK の取材が旧・小出町に入ることとなり、町を PR する企画として誕生した。



◆白山ジオトレイル（白山ジオトレイル実行委員会）

- ・ 世界中の食料を背負い、7 日間のテント泊で行う 250 キロのウルトラマラソンに発起人がチャレンジしたことがきっかけ。日本でも人生が変わるようなイベントを開催し、日本や世界を元気にしたいと考えている矢先、石川県の霊峰・白山と出会い、麓の白山市では白山手取川ジオパークの活動を通じた観光活性化や白山信仰があったことで、文化とスポーツを融合して白山麓の活性化に結びつけたいと考えたため。



<文化ツーリズム賞>

◆忍びの里「伊賀」ならではの本物の忍びの「心技体」を体験できる体験プログラムづくり

（「忍びの里 伊賀」創生プロジェクト会議）

- ・ 伊賀市は日本文化遺産として認定された忍者の街でありながら、訪問した観光客の満足度は決して高くない。つくられた忍者像ではなく、本物の姿を学び体験することのできる年間を通じたプログラムが存在しないため、地域のために活動を行いたい人と体験したい人を結ぶ活動を起こそうとしたことがきっかけ。



◆「めぐる、たべる、つかる」ONSEN・ガストロノミーツーリズムで地域を元気に！

（一般社団法人 ONSEN・ガストロノミーツーリズム推進機構）

- ・ 温泉地の悩みのひとつは、そもそも地方の人口が減少、高齢化し需要が低下していたことであり、そこに団体旅行から FIT（Foreign Independent Tour：個人旅行）への旅行形態の変化が追い打ちをかけた。ただ、個人の発信によって、个性的で心地よい旅館、特徴のある温泉地は、口コミが口コミを呼んであつという間に世界中にファンが広がる。この特徴を活かし、温泉地としての個性を出しやすい食をテーマにした観光がガストロノミーツーリズムである。
- ・ ガストロノミーツーリズムの先進事例としてフランス・アルザス地方では、各村でそれぞれ 300 人から 500 人ほどを集めて、日曜日にガストロノミーウォーキング実施している。地元のワインを飲み、おいしいものを食べ、ワイン畑の絶景を見て歩くイベント、これを日本の温泉地で行い活性化の起爆剤とできないかと着想した。



質問 1 : 貴事業の概要、成果、今後の目標などについてお伺いします。

② 貴事業開催前に設定していた目的・狙いをご記入ください。

<スポーツ文化ツーリズム賞>

◆日光国立公園マウンテンランニング大会（日光トレイルランニング実行委員会）

- ・ 地域の人々と一緒に作り上げる大会作り。今後はインバウンド対策なども視野に入れて活動していく予定。

◆剣道体験ツアー【SAMURAI TRIP】（剣道体験ツアー-SAMURAI TRIP（運営：株式会社パークフォーアス））

- ・ 剣道の市場を構成する要素には、道場、防具・竹刀などの剣道具、剣道指導や対外的な広報などの教育普及活動があり、現状はこれらの各要素が分断されているので、それらをつないで大きくしていきたい。

<スポーツツーリズム賞>

◆魚沼国際雪合戦大会（小出雪まつり実行委員会）

- ・ 事業開始から 32 年が経過しているため、詳細は不明だが、雪を活用して地域経済の活性化を目指すものであったものと思われる。

◆白山ジオトレイル（白山ジオトレイル実行委員会）

- ・ 日本中や世界中から白山に来ていただき、人生が変わるような経験をして、日本や世界を元気にすること。白山麓をたくさんの方々に知っていただき、交流人口を増やすこと。

<文化ツーリズム賞>

◆忍びの里「伊賀」ならではの本物の忍びの「心技体」を体現できる体験プログラムづくり

（「忍びの里 伊賀」創生プロジェクト会議）

- ・ 忍者の本物の文化や生活、存在を発信し、体験してもらい、年間を通じて忍びの正心である「心技体」を学んでもらえるプログラムの造成と販売を行う。
- ・ まず、伊賀市民や伊賀市近郊の方々に活動に参加してもらい、大都市圏を訪れる外国人旅行者や忍者に興味を持つ世界中の旅行者を導き入れることで地域を活性化させ、伊賀の街の魅力を創造し若者にも魅力ある仕事の場を設けていく。

◆「めぐる、たべる、つかる」ONSEN・ガストロノミーツーリズムで地域を元気に！

（一般社団法人 ONSEN・ガストロノミーツーリズム推進機構）

- ・ ONSEN と食のメジャーコンテンツの掛け合わせで、新しいツーリズムとして地方の温泉地へ誘客。特にインバウンドを誘客し温泉地を元気にしていく。
- ・ 毎週末日本のどこかで開催し、訪日外国人も参加しやすい仕掛けを行う。
- ・ ツーリズムの認知度を向上とブランディングにより、地域の農産物もブランド化につなげることを狙う。

質問 1 : 貴事業の概要、成果、今後の目標などについてお伺いします。

③事業の目的・狙いは、どのくらい達成できたとお考えですか？

また、事業成果としての経済効果や社会的効果について、できる限り定量的にご記入ください。

<スポーツ文化ツーリズム賞>

◆日光国立公園マウンテンランニング大会（日光トレイルランニング実行委員会）

- ・ 60%くらいだと考えている。今後、運営体制の向上やインバウンドの対応を検討していき地域から世界に誇れる大会作りを目指していく。

◆剣道体験ツアー【SAMURAI TRIP】（剣道体験ツアー-SAMURAI TRIP（運営：株式会社パークフォーアス））

- ・ 非公開。

<スポーツツーリズム賞>

◆魚沼国際雪合戦大会（小出雪まつり実行委員会）

- ・ 本イベントは年を追うごとに人気が高まって規模を拡大している。近年は、約 200 チーム、約 1,000 人が雪合戦に参加、約 12,000 人もの方々が来場する魚沼の冬の一大イベントに成長し、宿泊や飲食業を中心に大きな経済効果を生んでいる。また、参加チームの約 6 割がリピーターのチームで、魚沼市での前夜交流祭に参加して、交流人口の増加にも寄与している。

◆白山ジオトレイル（白山ジオトレイル実行委員会）

- ・ 2019 年で第 6 回目であったが、毎年参加者 25~40 人程度、ボランティアスタッフ 30 人程度。

<文化ツーリズム賞>

◆忍びの里「伊賀」ならではの本物の忍びの「心技体」を体現できる体験プログラムづくり

（「忍びの里 伊賀」創生プロジェクト会議）

- ・ 忍者トレイルランニングレースは約 1,100 人の参加者と約 200 人のボランティアがかかわり地域の冠イベントとなりつつある。また、温泉施設でのヨガ（毎月約 50 人）や農業体験（毎月約 12 人）などの集客が始まっている。
- ・ 体験プログラムづくりでは、創成期ではあるが、地域での体験プログラムの提供を希望するプログラム提供者向けセミナーに約 30 人の方々が参加の意思を示し始めるなど、少しずつ進展しつつある。

◆「めぐる、たべる、つかる」ONSEN・ガストロノミーツーリズムで地域を元気に！

(一般社団法人 ONSEN・ガストロノミーツーリズム推進機構)

- ・ ガストロノミーウォーキングは 2020 年 1 月末現在で全国 63 ヵ所にて開催、延べ参加者数は 15,000 人に上り、毎回のアンケート調査でも満足度 95%を超えている。経済波及効果については、単体イベントの開催に伴う効果を 423 万円と試算した例があり、単純推計では累計 2 億 7,000 万円程度となる。
- ・ ONSEN・ガストロノミーツーリズムの一般への認知度は 6%とまだまだ低い状況であり、認知度向上とブランド化の取り組みが必要。全国各地での開催の時期に合わせて、機運醸成を進めている。
- ・ インバウンド参加者の比率は 1.2%であり、まだまだ低い状況。

質問 1：貴事業の概要、成果、今後の目標などについてお伺いします。

④今後の目標（集客、インバウンド展開など）を、できるだけ具体的にご記入ください。

特に、数値目標など定量的な指標を設定されている場合は、ぜひご教示ください。

<スポーツ文化ツーリズム賞>

◆日光国立公園マウンテンランニング大会（日光トレイルランニング実行委員会）

- ・ 100kmを構想中。この距離は、トレラン業界でも非常に参加者が多く集まる距離でもあるため、奥日光まで繋ぐ壮大なルートを計画している。

◆剣道体験ツアー【SAMURAI TRIP】（剣道体験ツアーSAMURAI TRIP（運営：株式会社パークフォーアス））

- ・ 非公開。

<スポーツツーリズム賞>

◆魚沼国際雪合戦大会（小出雪まつり実行委員会）

- ・ 具体的な数値目標は持っていないが、前述の経済効果指数における費用対効果を上げ、本イベントの開催を契機に地域経済を潤うことが大きな目標。
- ・ 会場の大きさや運営スタッフ数の関係で、参加応募チーム（約 200 チーム）を、これ以上増やすことは困難であるため、今後は応募チームに魚沼をより楽しんでいただき、大会前後で地域内消費を拡大できるような「質」を高める仕組みづくりが必要。

◆白山ジオトレイル（白山ジオトレイル実行委員会）

- ・ 2020 年は参加者 60 人。目標 100 人。

<文化ツーリズム賞>

◆忍びの里「伊賀」ならではの本物の忍びの「心技体」を体現できる体験プログラムづくり

(「忍びの里 伊賀」創生プロジェクト会議)

指標項目	単位	2018年 (度)	2019年 (度)	2020年 (度)	2021年 (度)	2022年 (度)	2023年 (度)
●体験プログラム 参加者数	人	0	1,471	1,663	1,748	1,835	1,927
●地区民泊 宿泊人泊数	人	1,400	2,586	3,165	3,887	3,965	4,044
●大山田温泉福祉 公社の収益	千円	1,801	465	1,343	1,403	2,000	3,500
●Webサイト PV数	件数	0	5千※	24.0千	24.4千	24.9千	25.4千

◆「めぐる、たべる、つかる」ONSEN・ガストロノミーツーリズムで地域を元気に!

(一般社団法人 ONSEN・ガストロノミーツーリズム推進機構)

- ・ 年間 50 回開催を目標とする。
- ・ イベント開催日以外でもウォーキングコースを体験いただけるように、会員向け情報サイトにて温泉地でのスポット情報、認定コースの情報提供を行う。

質問 2：地方公共団体や地域で連携している展開があれば、ご記入ください。

<スポーツ文化ツーリズム賞>

◆日光国立公園マウンテンランニング大会（日光トレイルランニング実行委員会）

- ・ 地方公共団体は大会の後援。また、地域の情報誌などにも掲載。

◆剣道体験ツアー【SAMURAI TRIP】（剣道体験ツアーSAMURAI TRIP（運営：株式会社パークフォーアス））

- ・ 問い合わせは多くあるが、ビジネスベースでの話ができないため、連携はしていない。ツアー視察等はよくある。

<スポーツツーリズム賞>

◆魚沼国際雪合戦大会（小出雪まつり実行委員会）

- ・ 雪合戦を共催する「魚沼市観光協会」の WEB サイトで情報発信しているほか、町内会と連携し、前夜祭で「雪灯籠」点灯して参加チームを温かくお迎えしている。大会当日には「雪洞ゾーン」を設置して、来場者に魚沼の地酒やホルモン焼き等を振舞っている。

◆白山ジオトレイル（白山ジオトレイル実行委員会）

- ・ 白山市観光文化スポーツ部白山手取川ジオパーク・エコパーク課に後援していただくとともに、地域との調整や施設利用などで協力をしていただいている。
- ・ 白山比咩神社にスタート・ゴール・安全祈願・霊峰白山の入山利用でご協力をいただいている。
- ・ 白峰林西寺にゴール・参加者への白山の文化歴史のお話でご協力をいただいている
- ・ 金劔宮、早松神社、別宮神社、中宮神社、岩本神社に参加者の立ち寄りポイントでご協力をいただいている。
- ・ 白山観光協会に白山室堂宿泊で、一里野温泉観光協会に振る舞い汁のご協力をいただいている

<文化ツーリズム賞>

◆忍びの里「伊賀」ならではの本物の忍びの「心技体」を体験できる体験プログラムづくり

（「忍びの里 伊賀」創生プロジェクト会議）

- ・ 「観光三重」や「いがぐり」など季刊誌に掲載し、広報活動を行っている。
- ・ 県政記者クラブ、市政記者クラブを通じて、広報活動を行っている。
- ・ 里山保全活動など市民とともに参加している。

◆「めぐる、たべる、つかる」ONSEN・ガストロノミーツーリズムで地域を元気に！

（一般社団法人 ONSEN・ガストロノミーツーリズム推進機構）

- ・ 基本的にすべてのウォーキングイベントでは地元自治体・観光協会を含む実行委員会を組織し、イベント運営を行っており、情報提供においても市報や観光協会 WEB サイトへの掲載などの連携を行っている。

6 団体のうち 5 団体が何らかの形で地方公共団体と連携している。情報誌や WEB サイトを活用した情報発信の支援が主となるが、施設利用の協力や実行委員会への参画といった密接なつながりもみられた。

質問 3 : インバウンド向けに展開していることがあれば、ご記入ください。
(WEB サイトやチラシの多言語展開など)

<スポーツ文化ツーリズム賞>

◆日光国立公園マウンテンランニング大会（日光トレイルランニング実行委員会）

- ・ WEB サイトの英訳に加えて、旅行会社ともタイアップ企画などを行っている。

◆剣道体験ツアー【SAMURAI TRIP】（剣道体験ツアー-SAMURAI TRIP（運営：株式会社パークフォーアス））

- ・ OTA 掲載、旅行エージェント営業（海外資本系）、インバウンドメディア掲載、SNS 運用、ホテル営業等。

<スポーツツーリズム賞>

◆魚沼国際雪合戦大会（小出雪まつり実行委員会）

- ・ 現在は、特段ないが、今後の展開を進めていかなければいけない分野と考えている。

◆白山ジオトレイル（白山ジオトレイル実行委員会）

- ・ 公式 WEB サイトの多言語化
- ・ 海外のウルトラマラソンのポータルサイトに登録。
- ・ 外国人向け動画の制作及び発信

<文化ツーリズム賞>

◆忍びの里「伊賀」ならではの本物の忍びの「心技体」を体験できる体験プログラムづくり

（「忍びの里 伊賀」創生プロジェクト会議）

- ・ 公式 WEB サイトやチラシの英語版を作製（予約サイトを含む）。
- ・ 海外のインフルエンサーを招待し、レースなどの記事を発信。
- ・ 海外（フランス）のレースに参加し、海外メディアに発信。
- ・ Airbnb など外国人旅行者が親しみやすい環境を整えている。

◆「めぐる、たべる、つかる」ONSEN・ガストロノミーツーリズムで地域を元気に！

（一般社団法人 ONSEN・ガストロノミーツーリズム推進機構）

- ・ 日本の温泉文化に関心が高い台湾を重点地域としてインバウンド誘致に取り組むこととし、第一弾として台湾でのウォーキングを 2020 年 2 月に実施し、マーケティング調査を行っている。
- ・ ツーリズム WEB サイトを多言語化（英語・繁体字・簡体字）。イベント英語申し込みページの開設を行った。
- ・ 繁体字での Facebook アカウントを開設し、情報発信を行っている。
- ・ イベント以外でもツーリズムを体験できるサービスとして、ガイドとのマッチングサービスを利用したツアーの提供を行っている。

6 団体中、5 団体がインバウンド向けに何らかの取り組みを展開している。このうち、4 団体が WEB サイトの多言語化を行っていた。その他、旅行会社との連携や海外向けのコンテンツの制作によって PR している団体もみられた。

質問 4 : 貴団体で、今後や直近での課題があれば、ご記入ください。

<スポーツ文化ツーリズム賞>

◆日光国立公園マウンテンランニング大会（日光トレイルランニング実行委員会）

- ・ 距離を伸ばすに当たり、人数が増えた際の運営体制の問題や、地域間との調整などが課題。

◆剣道体験ツアー【SAMURAI TRIP】（剣道体験ツアーSAMURAI TRIP（運営：株式会社パークフォーアス））

- ・ 欧米系の富裕層や団体の集客。

<スポーツツーリズム賞>

◆魚沼国際雪合戦大会（小出雪まつり実行委員会）

- ・ 「国際雪合戦」と銘打つイベントであるが、インバウンドの参加者が少ないことが課題。今後は、隣接市（南魚沼市）に拠点を置く国際大学（IUJ）と連携し、学生の参加呼び掛けの強化や、多国籍の学生が集まる利点を生かして、母国への情報発信等を行う企画など、インバウンドの裾野拡大に向けた取り組みを行っていく必要がある。

◆白山ジオトレイル（白山ジオトレイル実行委員会）

- ・ 2020年8月の第7回白山ジオトレイルに向け、海外へのPRと外国人参加者を増やすこと、1週間連続で参加できる大会運営スタッフを増やすことが課題。

<文化ツーリズム賞>

◆忍びの里「伊賀」ならではの本物の忍びの「心技体」を体験できる体験プログラムづくり

（「忍びの里 伊賀」創生プロジェクト会議）

- ・ 忍者トレイルランニングレースや農業体験・文化体験の事業（「伊賀忍道」体験プログラム）を実施する団体や事業者が、事業の定着化に向け、市民連携によるボランティアや運営スタッフの協力を得ながら自立していくことが当面の課題。
- ・ 持続可能な開発目標（SDGs）に対応するため、森林環境の保全、ゴミの減量（紙コップの使用禁止）、訪日外国人旅行者への対応など地元住民と連携しながら充実強化を図る。
- ・ ITの活用により情報管理、進捗管理、サポート業務等の簡素化、負担軽減を図る。

◆「めぐる、たべる、つかる」ONSEN・ガストロノミーツーリズムで地域を元気に！

（一般社団法人 ONSEN・ガストロノミーツーリズム推進機構）

- ・ インバウンドに関しては取り組みに着手したばかりで、十分なボリュームとなっていない。海外との連携先を増やしつつ模索しているところ。
- ・ 収益の確保のために、グッズ販売やイベント開催以外での収益先を模索している。
- ・ 開催地が増えるに従って事務局のマンパワー不足が顕在化してきている。

大きく分類すると、事業拡大に向けた運営体制（マンパワー）とインバウンドに課題を感じている団体がみられた。こうした課題の解決に向けては、地元にあるリソース（大学や市民ボランティア）の活用がひとつのポイントとなりうる。

質問 5 : スポーツ文化ツーリズム発展のため、貴事業が特に自信があり、他よりも優れていると思われる点をご記入ください。

また、他の地域で、これから事業を始めようとしている方や、すでに携わっている方へ、アドバイスやご意見があればお願いいたします。

<スポーツ文化ツーリズム賞>

◆日光国立公園マウンテンランニング大会（日光トレイルランニング実行委員会）

- ・ 歴史と文化、スポーツを掛け合わせた大会運営を行っており、イベント運営を目的にするのではなく、関わる人々がどういふ目標を抱けるのか明確にすることが大切だと感じている。

◆剣道体験ツアー【SAMURAI TRIP】（剣道体験ツアー-SAMURAI TRIP（運営：株式会社パークフォーアス））

- ・ 全日本剣道連盟および全日本道場連盟にも報告、連携済みであり、圧倒的な「正統性」がある（＝本物）。
- ・ 圧倒的な剣道側のコネクションがある。
- ・ 大人数の受け入れが可能（現在での最大同時催行人数 252 人）。
- ・ 旅行業インバウンド知識がある。
- ・ 「供給者目線」にならない。必ず「需要者目線」。前者だと無駄な WEB サイトや動画ばかり作りがち。それは自己満足。
- ・ ビジネスから逃げない。どんなに良いものでも、稼げなければ続かないし、横展開もない。
- ・ 特に地方では、「外国人がそこに降り立つ根拠は何ですか？」を徹底的に突き詰めないと、事業にならない。

<スポーツツーリズム賞>

◆魚沼国際雪合戦大会（小出雪まつり実行委員会）

- ・ 他地域と差別化できる「豪雪」を、イベントに活かしている点。魚沼市には、古より息づく「雪国の暮らし」や「独自の発酵食」などの独自の「雪国文化」が存在します。こうした背景やストーリーが、単純明快な雪合戦の競技と結びつくことで、希少性が高く純粋に楽しめる「着地型観光コンテンツ」として成立している。

◆白山ジオトレイル（白山ジオトレイル実行委員会）

- ・ 白山の文化や歴史をコースに入れたり、キャンプ地で伝統芸能を披露することができる。

<文化ツーリズム賞>

◆忍びの里「伊賀」ならではの本物の忍びの「心技体」を体験できる体験プログラムづくり

(「忍びの里 伊賀」創生プロジェクト会議)

- ・ 地域の活性化のために、地元住民をはじめ関係機関、関係団体、関係事業者など多数の関係者が忍者の正心である「心技体」の本物を体験できるプログラムづくりに関わって、知恵を出し合いながら事業を進めている。
- ・ 「地元」が好きで、「地域の魅力・強み＝忍者」を知ってほしい、伝えたいなど強い思いを持つ人々が集まり、それぞれが自分の強みを活かしたり、自分ができることを率先したりすることで、新たなアイデアや新たな展開が生まれている。

◆「めぐる、たべる、つかる」ONSEN・ガストロノミーツーリズムで地域を元気に！

(一般社団法人 ONSEN・ガストロノミーツーリズム推進機構)

- ・ ウォーキングとしては入門コースが多く、温泉と食というウォーキングへ参加してみたいくなる仕掛けが備わっている点は、これまでスポーツ習慣がなかった層への参加のきっかけとなっていると考えている。
(ウォーキングで空腹を促し、地元の料理を楽しめる機会を多く作る。ウォーキングで汗をかいた後は温泉へ入浴し疲れを癒す。)
- ・ 全国各地で開催されているウォーキングイベントが、テーマ性を持たせることでマンネリ化を脱却できる。日本各地に温泉と食は存在し、ハードが不要で運営面としても手軽に始められる取り組みだが、どれ一つとして同じものはなく、地域の魅力をPRできる。
- ・ 機構は参加者のリピーターを中心に会員組織を結成しており、全国的なネットワークで温泉地めぐりを楽しむ組織を作り、参加者間のコミュニティや集客に活用している。

他地域と差別化できる魅力・強みを活かすことが重要と考える団体が多い。加えて、関わる人々への動機づけやビジネスとしての視点をもつことなどがアドバイスとしてあげられた。

質問 6 : 今回「スポーツ文化ツーリズムアワード」に応募された理由をご記入ください。

<スポーツ文化ツーリズム賞>

◆日光国立公園マウンテンランニング大会（日光トレイルランニング実行委員会）

- ・ 私たちの取り組みを多くの方に知ってもらい、発信していきたいと思ったため。

◆剣道体験ツアー【SAMURAI TRIP】（剣道体験ツアー-SAMURAI TRIP（運営：株式会社パークフォーアス））

- ・ 箔をつけて、正統性を高めたい。
- ・ 全国展開への弾みをつけたい。圧倒的な剣道側のコネクションがある。

<スポーツツーリズム賞>

◆魚沼国際雪合戦大会（小出雪まつり実行委員会）

- ・ 「魚沼国際雪合戦公式 HP」の問い合わせフォームに、アワードへの応募の勧誘メールが届いたため。

◆白山ジオトレイル（白山ジオトレイル実行委員会）

- ・ 協力いただいている民間企業担当者の紹介による。
- ・ アワードを受賞すれば本イベントに関わるスタッフに、本イベントを誇りにしてもらえと思ったため。

<文化ツーリズム賞>

◆忍びの里「伊賀」ならではの本物の忍びの「心技体」を体現できる体験プログラムづくり

（「忍びの里 伊賀」創生プロジェクト会議）

- ・ 「スポーツ文化ツーリズムアワード」で一定の評価をいただき、知名度が上がることによって、忍者トレイルランニングレースなど日本遺産でもある「忍者」を活用し地域の活性化に日頃から挑戦する関係者が賞賛され、今後の事業展開に弾みがつくものと考えたため。

◆「めぐる、たべる、つかる」ONSEN・ガストロノミーツーリズムで地域を元気に！

（一般社団法人 ONSEN・ガストロノミーツーリズム推進機構）

- ・ オリンピック開催を機にスポーツツーリズムへの関心が高まることを見据え、活動内容をより知っていただき、ファン層獲得につなげるため。

受賞による団体や活動内容の知名度アップ、関係者のモチベーションアップといった理由がみられた。

質問 7 : 本アワード受賞前後の変化等があれば (又は今後期待すること) を、ご記入ください。

<スポーツ文化ツーリズム賞>

◆日光国立公園マウンテンランニング大会 (日光トレイルランニング実行委員会)

- ・ 地元紙や専門誌などから取材をいただいた。

◆剣道体験ツアー【SAMURAI TRIP】 (剣道体験ツアーSAMURAI TRIP (運営 : 株式会社パークフォーアス))

- ・ 今のところ特になし。もともと取材はよく来るのですが、本受賞で増えたという感じはない。

<スポーツツーリズム賞>

◆魚沼国際雪合戦大会 (小出雪まつり実行委員会)

- ・ 新潟県内の地方紙を中心に数多くのメディアに取り上げていただき、イベントの PR となった。

◆白山ジオトレイル (白山ジオトレイル実行委員会)

- ・ 特に変化なし。

<文化ツーリズム賞>

◆忍びの里「伊賀」ならではの本物の忍びの「心技体」を体験できる体験プログラムづくり

(「忍びの里 伊賀」創生プロジェクト会議)

- ・ 地元のテレビ局や新聞から取材を受け、報道されたため、地域の活性化に貢献しているという意識が再確認され、更なる挑戦につながっている。
- ・ 新たな関係者と連携を図り、更に広い範囲で事業を展開することも検討している。

◆「めぐる、たべる、つかる」ONSEN・ガストロノミーツーリズムで地域を元気に !

(一般社団法人 ONSEN・ガストロノミーツーリズム推進機構)

- ・ 開催自治体やファン層の拡大への支援となることも期待している。
- ・ スポーツ関連企業や自治体のスポーツ関連部署との連携を期待している。
(具体的にはイベントコースへのスポーツ施設の組入れや地域スポーツチームとのコラボレーションなど)

テレビや新聞、専門誌といったメディアに取り上げられることによる PR 効果があったとの回答が複数みられた。一方で、「特になし」との回答もあった。

質問 8 : 「スポーツ文化ツーリズムアワード」や、「スポーツ文化ツーリズムシンポジウム」を活性化するためのアイデアやご提言等があれば、ご記入ください。

<スポーツ文化ツーリズム賞>

◆日光国立公園マウンテンランニング大会（日光トレイルランニング実行委員会）

- ・ ホームページに掲載できるような公式な認定 logo など。

◆剣道体験ツアー【SAMURAI TRIP】（剣道体験ツアー-SAMURAI TRIP（運営：株式会社パークフォーアス））

- ・ インバウンド的観点では、「海外への発信媒体」や「海外メディア」が一切いないのが摩訶不思議。
- ・ 国内向けにどんなに有名になっても意味がないので、「海外発信」を先に考えて組み立てるべき。
- ・ 賞を頂いたり、ディスカッションをすることで「何か進んでいる気」になりがちですが、それによって観光客が増える訳では全くないので、「実利効果」の部分を最優先で考えていただきたい。

<スポーツツーリズム賞>

◆魚沼国際雪合戦大会（小出雪まつり実行委員会）

- ・ 「スポーツ文化ツーリズムアワード」の公式 WEB サイトを作成し、アワード授賞式後に行った各イベントのプレゼン資料（動画やパワポ等）を公開すれば、既受賞団体はイベントの継続的な PR となり、これから応募しようとする団体には応募の参考になるのではないかな。

◆白山ジオトレイル（白山ジオトレイル実行委員会）

- ・ 全国や世界へ発信して頂けるメディアから取材していただきたい。

<文化ツーリズム賞>

◆忍びの里「伊賀」ならではの本物の忍びの「心技体」を体現できる体験プログラムづくり

（「忍びの里 伊賀」創生プロジェクト会議）

- ・ 過去の受賞団体などとの情報交流できる場・機会の提供。
- ・ 海外メディアとの交流とその後の支援。
- ・ 「スポーツ文化ツーリズムアワード」の知名度や希少価値（重み）を高めるために、皇族の出席、公開の投票（市民投票）などマスコミに取り上げてもらえるような仕掛け。
- ・ 応募数を増加させるための、受賞メリットの充実。

◆「めぐる、たべる、つかる」ONSEN・ガストロノミーツーリズムで地域を元気に！

（一般社団法人 ONSEN・ガストロノミーツーリズム推進機構）

- ・ アワード申し込みフォームの電子化。
- ・ 3 庁でのスポーツ文化ツーリズム特集ページの開設。
- ・ これまでの受賞団体を中心に紹介とツーリズムへの参加申し込みへのリンク。

「海外メディアへの発信」と回答した団体が複数みられた。加えて、アワード特集 WEB コンテンツの作成、掲載可能な認定ロゴ、申し込みの電子化といったウェブサイト関連のアイデアも多くあった。

<スポーツ文化ツーリズム賞>

◆日光国立公園マウンテンランニング大会（日光トレイルランニング実行委員会）

- ・ 表彰だけにとどまるのではなく、実際に関わる機会を増やし形にしていけると良い。

◆剣道体験ツアー【SAMURAI TRIP】（剣道体験ツアー-SAMURAI TRIP（運営：株式会社パークフォーアス））

- ・ 質問 5 への回答の後半部分、質問 8 への回答が提言と要望です。数年前から言い続けていますが、なかなか改善されないため、善処を期待したい。

<スポーツツーリズム賞>

◆白山ジオトレイル（白山ジオトレイル実行委員会）

- ・ 3 庁関係者に実際に現場に来てほしい。

<文化ツーリズム賞>

◆忍びの里「伊賀」ならではの本物の忍びの「心技体」を体現できる体験プログラムづくり

（「忍びの里 伊賀」創生プロジェクト会議）

- ・ 会議やイベントの開催などの機会を捉えての事業の PR。
- ・ 日本政府観光局（JNTO）などによる海外 PR。
- ・ 政府 WEB サイトに「スポーツ文化ツーリズムアワード」の専用ページ開設。
- ・ 各省庁との懇談や人脈づくりなど国との情報交換の機会提供（連携しやすい環境づくり）。
- ・ 体験プログラムづくりを加速させるための環境整備に係る補助金制度。
- ・ 海外メディアとの交流とその後の支援。

5. 調査結果総括

調査結果の総括として、今回選定された団体の取組から、今後、取組を始める、企画する団体・自治体への参考となるポイントをまとめた。

- ① **地域資源を見出し、他地域にはない魅力を作り上げる**ことが重要である。スポーツ文化ツーリズム（スポーツツーリズム、文化ツーリズムを含む）として事業化するには、「その土地でしか味わえない魅力」を徹底的に深掘りし、他地域と差別化することが求められる。今年度の受賞団体では、5 団体が地域の魅力をツーリズム事業に結びつけている。しかし、全国でもそこにしか存在しないコンテンツを活用した伊賀を除き、トレイルランニング、雪合戦、食と温泉といったコンテンツは多くの地域にも存在するが、イベントとしての魅力を作り上げることで事業に結びつけることができている。また同時に、地方公共団体や地域の住民、関係する団体・組織に事業への関心を持ってもらい、協力を得ることも事業として成立する重要なポイントとなっている。
- ② **キーとなる人材を発掘し、しっかりとした理念のもとに事業化する**ことが重要である。受賞団体のような好事例においては、コンテンツが持っている魅力に価値があると信じ、その魅力によって地域や競技を活性化させたいとの理念をもつキーパーソンが存在が明らかとなった。こうした人材がさまざまなステークホルダーを巻き込むことによって、コンテンツが磨き上げられ、事業へと結びついていく。いかに立派な資源が存在していても、それに価値を与え、周囲を巻き込み、ビジネスとして成立させるための人材がいなければ、資源は埋もれたままである。こうした人材を多く育てていくことが、これからのスポーツ文化ツーリズムの発展に不可欠であろう。

また、スポーツ文化ツーリズムアワードへの課題として、海外への発信機会の少なさが複数の受賞団体からあげられた。また、**3 庁連携およびアワードに特化したウェブサイトの設置も要望としてあげられた**。今後は、こうした要望に応えられるような対応が求められる。

最後に、受賞団体がスポーツ文化ツーリズムアワードに応募した理由として、団体名や活動内容の知名度アップ、インバウンドにつながるようにとの声が多くあげられ、**アワードが広報支援の一助として求められていることが明らかとなった**。

加えて、受賞による関係者のモチベーションアップをあげる団体もあった。今後も本アワードを継続的に実施することで、スポーツ文化ツーリズムを行う団体や活動の認知拡大や価値向上、関係者の誇りにつながるため、わが国のスポーツ文化ツーリズムの推進に寄与するものと考えられる。